

はじめに

救急研修が必修化された影響でしょうか、救急外来における初期診療についての優れた解説書が数多く出版されるようになりました。研修医の先生もこれらの解説書で勉強し、指導医の先生とともに準備万端の平常心の状態で診療しているときには大きなトラブルは発生していないと思います。

しかし、救急外来はときに自らの能力をはるかに超える事態が容易に発生し、平常心を保つことが非常に困難な場所です。自らの失敗を振り返っても、何らかの理由で平常心を失い、教科書に書いてあることなんか頭から吹っ飛んでしまって“キケンな一言”を口にしたときに大きな失敗をしていることに気が付きました。

多くの優れた解説書が世に出版されている中で、新たに救急外来に関する本を出版することに意義はあるだろうかと考えることもありました。それでも、日本の救急医療、時間外診療を支えている若き臨床医（もちろん私も含まれている！！…と思いたい…）が、救急外来で平常心を失ってしまったとき、“キケンな一言”を口にしてしまったときに「これは何か危ない流れだぞ…」と我に返り、冷静さを取り戻すきっかけをもたらす本ができればと考え、キケンな一言集をまとめてみようと思いました。救急外来で平常心を失いかけてしまったときに、「そういえば、“こんな言葉を口にしたときは危ない”って、誰かが言っていたな～」と思い出していただければ幸いです。

そして、本書が救急外来で日々奮闘している医療スタッフのストレス軽減に役立つことができれば筆者としてこれに勝る喜びはありません。

最後になりましたが、場末の救急外来で日々悪戦苦闘しているに過ぎない若輩者に貴重な機会を与えてくださった羊土社編集部の皆様、これまで指導して下さった指導医の先生方、救急外来診療を支えている救急科医師、ナース、検査技師、放射線技師、事務の仲間の皆さん、救急外来からの種々のコンサルテーションに対して常に協力的でかつ叱咤激励して下さる各科専門医の先生、日夜救急外来で奮闘し私に驚きを提供し、飽きさせるどころか救急外来の奥深さを教えてくれる愛すべき研修医達に心からの感謝の意を捧げたいと思います。

2008年夏

岩田充永